

一燈を下げて暗夜を行く  
暗夜を憂う事なかれ  
ただ一燈を頼め  
佐藤一斎 『言志晩録』より

# 國の支え

(故中井信夫元大阪府議会議長・97才)

関西防衛を支える会  
(略称・関防会)  
〒542-0081  
大阪市中央区南船場3-11-10  
心斎橋太陽ビル7階  
TEL 06-6241-1124  
発行人 高橋季義  
編集人 新川貞敏  
印刷所 (株)新聞印刷

第22号  
(春季号)  
平成17年4月1日(金)  
(皇紀2665年)  
(大正紀元94年)  
(昭和紀元80年)

## 出席者

- 古庄 幸一 前海上幕僚長
- 高橋 季義 会長
- 飯田美智子 理事
- 藤田たけ子 理事
- 濱野やよい 理事
- 関根とも子 会員
- 入江 信子 会員

司会…編集人

## 新緑を彩る



左から関根、濱野、藤田、古庄、飯田、高橋、入江の各氏

## 異色の座談会

# 海軍大将と 愛国婦人会



古庄幸一前海上幕僚長

**気骨の海幕長**  
高橋：今回、古庄さんをお招きするについて、新川編集長の厚かましさを黙って眺めてきたが、愛国婦人会と海軍大将とは…すごい集まりとなりました。  
私は他の団体にも入っているが、国家防衛や愛国心の涵養について実践している団体は少ない。また本場の意味で陸海空の自衛隊を支援する具体的な動きも少ない。この関防会が理屈を越えて実行する意欲が見える事が嬉しいのです。  
古庄さんとは阪基司令以来、親しくさせて頂いていますが、古庄さんは海上自衛官が等しく尊敬する望望の海幕長でした。掃海部隊がペルシヤ湾に出動した時、広報室長として積極的に貢献され、国民の海上自衛隊への理

司会：冷徹な国際政治の攻防の延長線上に軍事があり、軍事力の弱い国家の外交交渉は常に妥協譲歩を迫られる事になります。  
今、正に我が国は譲歩を余儀なくされる典型的な国家となりつつあります。  
この度、一月に退官されました古庄幸一海上幕僚長(海軍大将)を囲んで、銃後の守りの要である女性の視点から大将に色々聞いて貰い我々の活動の糧としてく存じます。初めに自己紹介をお願いします。関根さんから。  
関根：私は防大七期のインドネシア駐在武官をされたいた加藤寛二さんの紹介です。  
入江：神戸に住んでいます。古庄さんが阪神基地の司令をされている時にお世話になりました。  
飯田：大阪旭区の飯田です。息子が防大七期で陸上自衛隊に勤務しています。  
濱野：日本会議大阪で女性部会にも参加しています濱野です。  
藤田：藤田です、宜しくお願いします。

**海の財産管理**  
古庄：本日はこのような対談の席に招かれて感謝しております。  
実は前田事務局長から五千字の原稿を頼まれましたが締切りに間にあわないので、対談ではどうか、となりました。今日は丁度、四国からの帰途で誠にタイミングが良かったのです。関防会の皆さんには阪神基地在任中は大変にお世話になっており、そのお礼を兼ねて引受けた訳です。その節は有り難うございました。  
本日は婦人会の方々の対談と言う事で多少緊張しています(笑)。  
実は、この本に(手に持った雑誌「WILL」三月号と四月号を掲げ)「海幕長がアメリカに基地を返せ」と言っている、このタイトルで載っています、それが新聞などにタイトルだけ強調されて一寸困っています。内容を読んでもらえば本意が解るのですが、その説明をする意味でも本日の対談は渡りに船です。

防衛庁長官などに直言して制服組自衛官の士気を高められた事は高い評価を得ていますが、これは当然と言えば当然だが大変に勇気の要する事です。我が関防会だけで対談するのは誠に失礼ではあるが婦人会との対談も防衛力強化の源泉となるものであり、本日に良く来て頂いた感謝歓迎申し上げます。  
また護衛艦隊司令官の時はいンド洋に最初の部隊を派遣され、海幕長になられたからはイラクへの部隊派遣、また中国の原子力潜水艦の領海侵犯事件に直面対処され、スマトラ沖の大地震への急遽派遣という大胆率直な行動は皆さんの記憶に新しいことかと。  
この本の花田編集長は、氏が文藝春秋に在職時からの御世話になっていましたので取材に応じたのですが、どうもタイトルが先行したような感じでした。  
【編集部注：花田氏は週刊文春編集長時代、ユタヤ問題で物議を醸し文藝春秋を退社】  
海幕長在職の二年間は世界中の大きな変化に巡り合い、遭遇しましたが無事に勤める事ができて、皆様にご挨拶申し上げます。本日は女房に「財産管理」に行ってくださいと出てきましたが、これは援護頂きました。皆様は「財産」である、と言った先輩の教えによるものです。  
【会】この「海の友情」(阿川尚之著・中公新書刊)海上自衛隊と米海軍のサブタイトルと言つ本は四年前に出版されましたが、古庄さんの事が書いてあるのを出し、昨夜、読み直しました。  
古庄：多少、自慢話になりますが、これは「中央公論」に十回連載されたものですが、その時は阪神基地に居て毎号、原稿の校正のお手伝いをしていました。  
【会】この本は、終戦の昭和二十年の秋から海軍再建を図る人々を描き、海自の正史の溝を埋める、謂はば神史として素晴らしい本です。是非、国民の皆様にご覧下さい。

**厭世感で防大を志望**  
司会：古庄さんは一月前までは現役の海軍大将でした。中国・北朝鮮問題など、皆さんが疑問に思っておられる事など聞いて下さい。  
飯田：古庄さんは何故、海上を選ばれたのですか？  
古庄：実に単純でして、私は昭和二十一年に大分県の田舎に生まれましたが、海を知らなかったのです。

古庄：この本は江田島の幹部候補生学校の指定図書となっています。指定図書には『岡田啓介自伝』、『平家物語』の上・中・下の三巻などがあります。平清盛が浪速から壇の浦に下る中で指揮官としてあるべき姿・先見の明が鮮やかに描かれていて素晴らしいものです。  
厭世感で防大を志望

### 定時総会と講演会

こ 案 内

- ・期 日 平成17年5月14日(土)
- ・会 場 新東洋ホテル(大淀の間)  
☎06-6372-8181
- ・総 会 午後3時00分～4時30分
- ・講 演 午後4時40分～6時10分
- ・演 題 『軍事戦略に占める潜水艦部隊』  
\*中国の原潜が我が国の領海を侵犯したが、世界の潜水艦の現状と我が国の潜水艦の実力は?等、軍事機密に差支つかえない範囲で語って貰います。
- ・講 師 たのうち ひろし 田内 浩氏(防衛大学12期)  
前潜水艦隊司令官・海将  
(御聴講をお待ちしています)
- ・懇親会 午後6時20分～8時00分
- ・会 費 壱万円(当日受付)



ける国益をもって、国民に評価して貰うか方法があり  
ません。

例えばインド洋での行動も法律では「テロ対策特別支  
援法」と言っているが、米国のためか、英国のため  
はありませぬ。我が国はあの地から九割方の石油を買  
っているのです。その中東が安定して石油を供給して  
くれるから日本の経済活動や、我々の日常生活がある  
のです。我々がインド洋やイラクに行っているのは日本の  
国益のためです。

関根：お話しを聞いて納得しました。  
古庄：御要望があればどこでも出掛けて話しますから呼  
んでください。そこで海軍のトップは経営者でなければ  
ならない話が続けます。装備はそれぞれに素晴らしい  
が、陸・海・空が一緒になって、それを束ねてどのよう  
に使うか、今はやりのネットで結んで情報を共有しなが  
らやって行けば、いくらでも無駄が省けます。会社と一  
緒です。それは軍隊も同じで個々が能力アップし、情報  
を共有し努力すれば無駄がなくなり成果は得られる、と  
考えます。

### 日米安保の守備範囲は？

関根：日本の守備範囲はどこまでですか、米国には何を  
頼むのですか？ 教えてください。

古庄：原子力・核兵器を一切持っていない、と言っ  
て、日本はどこまで出来るのかと言っ事は非常に難し  
いのです。テロ組織は最新の兵器でも持っている。中国  
一國だけで対抗出来るのは米国しかありません。中国で  
も出来ません、だから中国は莫大な金を注ぎ込んで米国  
上になろうと努力しています。しかし米国のように世界  
中の情報を持って対処する能力は他にはありません。  
だからコアリションと言っエリアの枠組みが出来上  
がりつつあり、それに入らなければ一國ではどうにも  
ならない状況です。日本も、つまり日米同盟を  
機軸とした集団的自衛権を明確に  
打出す必要があります。

今や日本の守備範囲は千マイル  
ではなく、中東まで延びて拡大し  
ていると思えます。

関根：北朝鮮を中国は保護してい  
るようですが、米国の立場はどの  
ようなものでしょうか。

古庄：米国はあくまで国益優先です。今、基地の再編な  
どに見直しをしているのは一義的には国益のためです。い  
かに無駄を無くし、米国の若者を死なせずに、いかに早  
く対応できるようにするか、その組み合わせの中です。やっ  
ているのであり、日本の為とか世界の為ではありません。  
先ず、米国のため、そしてその結果として世界が平和に  
なる、と。ただ逆に世界の安定こそが米国の国益とも言  
えます。

日本政府は当然ながら米國と仲良くしなければなら  
ないし、米國をいかに早く取込んで対処するかを考えなけ  
ればなりません。米國に追随している等の勝手な事を言  
う政治家がありますが、そこをなく、米國といかに早く

## 海軍大将と愛国婦人会

やるのが日本の国益だときちんと考えなくてはなりません。  
米國が一番日本のことを考えていると思えます。

周辺國の為に血を流しますよ、くわいの意思表示を  
するべきです。汗も血も流さないと金だけ出して嘲笑さ  
れたのが十四年前の湾岸戦争です。あの時は百三十億ド  
ルと言っ、国民一人あたり壹万円の資金を提供したの  
です。海上自衛隊の年間予算より多  
いのです。それでも、どこも評価  
してくれなかったのです。そのお  
金がどのように使われたのかも国  
民は知らないのです。

そこで、それは汗を流し  
よう、と戦後処理(機雷掃海・ペ  
ルシヤ湾)に出て行った途端に評  
価が変わったのです。私が広報室  
長の時です。それで四年前、九・  
一一のあと日本は血を流す事を求  
められているんだと思っていたが、「やはり血を流して  
は駄目だ」と言われました。今回、昨年十一月十日の  
中国の原子力潜水艦の領海侵犯の時は、三年前の工作船  
(能登半島沖)の時よりは、うまくいったが、問題は多  
く残りました。

高橋：今後は現場に一任するようにはなりました。  
古庄：三年前は「撃つな」であつたが、今回は相手は海  
軍なので我々は今迄やって来た訓練通りにきちんと潜水  
艦を掴まえて、いつでも撃つと命令があれば撃つできる  
状態だつた。逆に何十時間も探知されつづけて、追尾さ  
れた相手の潜水艦は壊らなかつた  
と思つた。

関根：海域、境界線はどこまで  
か。

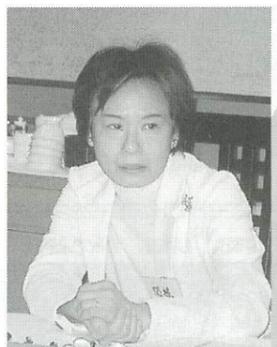
古庄：境界線がまた曖昧ですが、最  
終探知が出来るところまで行けばど  
こに入つたかは予測できます。オペ  
レーションそのものは全く心配ない  
し、手順は決まっているから、  
その通りやるだけです。

ただ、攻撃されたらどうするか、  
中国のものに判つているから尚更、判断が難しいので  
す。

### 汗も血も流す覚悟を持って

入江：いま、日本は米國とは良い関係にありますが、本  
当に日本を守つてくれますか。例えば拉致問題でも、米  
國が真剣に介入したら解決するんじゃないかと思つた  
が、また在日米軍基地が、司令部が標的にされる危険性  
を孕んでいませんか。

古庄：では戻しますが、中国、ロシア、北朝鮮の核兵  
器に対して日本独自で何が出来ますか。中国と仲良くで  
きますか？ 韓国はどどうですか？ イギリス、ロシ



関根会員

入江：米國はいつも国益を考えて、  
自國を傷つけない方法を採つてい  
るのではないですか。

古庄：米國はイラクを見ても解るよ  
うに、物凄くお金を使つています。  
その中で司令部をどこに置くと機能  
的に対応できるのか、等、つねに国  
益を考えてやっています。それは  
当然ではないでしょうか。

その事を日米で政治的に、また外交で率直に意見交換  
をしなから信頼関係を築くべきですが、日本は政府が選  
挙事情などの口実をつけて返答を延ばしてきた。誠意を  
持つて対応しないから米國は感情を損ねているのです。  
だから米國から一方的に押付けられたように見えるので  
す。米國の国益と日本の国益は必ずしも一致しません  
が、我が國の外交、防衛問題は積極的に対応したほうが  
日本の国益に繋がります。

入江：憲法改正には賛成ですが、九条について米國はど  
うに考えていますか。

古庄：米國は集団的自衛権だけは解決しようと言っている  
ように考えていますか。

今、陸士何期・海兵の 和六年の満洲事変から終戦  
何期と言つても通用する までの間の事であり、その  
人は少なくなつた、まし  
…あるいは熱沙のホロン  
…あるいは万里の長城に八路軍の侵攻を防衛して殉國の血潮は果てしなく流れた。反を北に南に  
繰り返して自滅四散した。  
この背反と多くの日米軍官・  
軍属の命が失われた。背反  
を語らずして満洲國軍は理  
解し得ないだろう、とも書  
いている。

古庄：これは石破長官の下で統合  
作戦が有効に機能するにはどう在  
るべきかの議論の中で出たもので  
す。先程も話しましたが、統幕議  
長制度が廃止になり陸海空を統括  
する統合幕僚長制になり、統合幕  
僚幹部と言っ組織が変わります。  
それをいかに機能させるかと言っ  
テーマで会議を長官の下、何十日  
もしていましたが、指示していただ  
けました。

### 米軍基地を返せの本意

飯田：参事官制度について発言された事が新聞を賑わし  
ていましたか。

古庄：これは石破長官の下で統合  
作戦が有効に機能するにはどう在  
るべきかの議論の中で出たもので  
す。先程も話しましたが、統幕議  
長制度が廃止になり陸海空を統括  
する統合幕僚長制になり、統合幕  
僚幹部と言っ組織が変わります。  
それをいかに機能させるかと言っ  
テーマで会議を長官の下、何十日  
もしていましたが、指示していただ  
けました。

参事官制度についてはOBなどの専門家を、政治  
的な補佐は文官でやらないと両輪がうまく回らない、  
総理だ。

純軍事的な作戦についてはOBなどの専門家を、政治  
的な補佐は文官でやらないと両輪がうまく回らない、  
総理だ。

土の建設に邁進していたが、長などは赤色革命思想の扶  
その過程には色々と蹉跌を 植が使命でもあった。それ  
踏む事もあっただろう、悲 しが如実に現れたのが昭和二  
劇もあつたが目的は理想郷 十年の八月であった。駅長  
の建設であつた事は間違ひ などを支那人には一朝一夕  
には代えられない人材不足 である、と記している。

当時の満洲は大半がソ連 負ければ賊軍の警え通り全  
の影響下にあり、日本は大 結局 満洲 國軍の悲しき宿命であつた。  
連から新京までの南滿洲鉄 道沿線に権益は無かつた。  
のである。残りの満洲全土 満洲國軍における日米軍  
の鉄道はシベリア鉄道と繋 官(日本人将校)は、五百  
がっており、日本がソ連か 人に一人の割合だつたと言  
ら購入したのは昭和十二年 う。彼らはお互いにかにし  
の事である。それでも駅長 五族の民が協和への願望  
などの要職はロシア人が座 達成していくかと言っ二重  
つていたのである。その駅 の苦労があり、更に、祖國

双方の意見をどう捌くのか手綱は長官である、と言っ当  
り前の説明をしたのです。そうしたら、その会議の内容  
が夕方には漏れて広がつたのです。  
私はむしろ結果的には良かったと思つています。大方  
のマスコミは「それはどうだ」と賛成に動きましたね。  
自民黨の国防部も昔から参事官制度には問題がある  
と言つていました、それはもっと議論をして間違いは  
正すべきだ、と言つていました。海幕長が発言したと言  
う事で私一人がマナ板の鯉でした。

いずれ、結論は出ると思いますが陸・海・空の部隊を  
いかに機能的に動かすかの会議の中で一つの提案として  
出したものであり、いずれこれはキチンと整理されると  
思います。国民の意識の方がウツと高く、集団的自衛権  
にしてもおかしいと言っ者は誰もいません。私は米國  
に基地を返せとは言つていません。米軍に占有権のある  
我が國の領土がまだ残つているのです。例えば横須賀基  
地では九割が米軍で、海上自衛隊は  
一割しかありません。

基地の提供・在り方は今のままで  
いい、予算も足り、だかもう六十  
年も経つているので領土だけけけ  
めをつけたら米國でも言つてしま  
したし、政治にも働き掛けるよう話  
した事もあつた、と言つたのです。そ  
うしたら「海幕長」は米軍基地を返せ  
と言つてると報道されたのです。  
飯田：従来、阪神基地の司令は退官  
前のポストでしたが、古庄さんが海幕長になられて近畿  
地方の自衛隊隊員は喜んでいました。  
高橋：それは仲摩さんが先鞭をつけたな、海将になり、  
航空総隊司令官から自衛隊になったからな。  
司会：それは長時間のお話しを有り難うございま  
した、会食に移りたいと思つています。(文責・新川)



濱野理事

古庄：境界線がまた曖昧ですが、最  
終探知が出来るところまで行けばど  
こに入つたかは予測できます。オペ  
レーションそのものは全く心配ない  
し、手順は決まっているから、  
その通りやるだけです。

ただ、攻撃されたらどうするか、  
中国のものに判つているから尚更、判断が難しいので  
す。

今、陸士何期・海兵の 和六年の満洲事変から終戦  
何期と言つても通用する までの間の事であり、その  
人は少なくなつた、まし  
…あるいは熱沙のホロン  
…あるいは万里の長城に八路軍の侵攻を防衛して殉國の血潮は果てしなく流れた。反を北に南に  
繰り返して自滅四散した。  
この背反と多くの日米軍官・  
軍属の命が失われた。背反  
を語らずして満洲國軍は理  
解し得ないだろう、とも書  
いている。

古庄：これは石破長官の下で統合  
作戦が有効に機能するにはどう在  
るべきかの議論の中で出たもので  
す。先程も話しましたが、統幕議  
長制度が廃止になり陸海空を統括  
する統合幕僚長制になり、統合幕  
僚幹部と言っ組織が変わります。  
それをいかに機能させるかと言っ  
テーマで会議を長官の下、何十日  
もしていましたが、指示していただ  
けました。

『五千日の軍隊』  
…満洲國軍の軍官たち…  
牧南恭子著・創林社刊  
定価1890円

今、陸士何期・海兵の 和六年の満洲事変から終戦  
何期と言つても通用する までの間の事であり、その  
人は少なくなつた、まし  
…あるいは熱沙のホロン  
…あるいは万里の長城に八路軍の侵攻を防衛して殉國の血潮は果てしなく流れた。反を北に南に  
繰り返して自滅四散した。  
この背反と多くの日米軍官・  
軍属の命が失われた。背反  
を語らずして満洲國軍は理  
解し得ないだろう、とも書  
いている。

**サイパン研修旅行**  
平成17年11月11日(金) 関西空港20:00出発  
11月14日(月) 関西空港 8:30到着  
旅行代金 約86,000円 (出入国税含む)  
募集人員 40名  
◎詳細は夏季号にお知らせします  
主催 関西防衛を支える会

